

## やまぐちコンビナート低炭素化構想（仮称）案について

### 構想の骨子

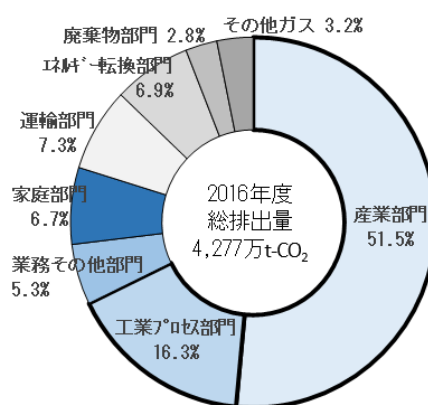
#### 1 趣 旨

原料・副生物、廃棄物を含め、製造プロセスが高度に最適化された企業群であるコンビナートにおいては、カーボンニュートラルの実現に向け、コンビナート全体で取り組む必要がある。

企業や自治体等が認識を共有し、強固な連携のもと、ポテンシャルを活かした効果的な取組を進めることができるよう、その指針となる構想を策定する。

#### 2 現 状

- ・本県では、産業部門及びこれに関連する工業プロセス部門（セメント製造業等）の温室効果ガス排出割合が約68%と全国の約35%と比較して大きい。
- ・県内に化学工業、石油石炭製品製造業などのエネルギーを多く必要とする産業が多く立地し、特に、化学、セメント等の企業を中心に安価で安定的な電力・熱を確保する観点から、石炭火力発電を活用
- ・また、セメント製造時に発生する非エネルギー起源CO<sub>2</sub>も多く発生している状況



山口県の部門別排出構成

#### 3 基本目標

コンビナートの国際競争力の維持・強化を図りつつ、  
2050年カーボンニュートラルを実現

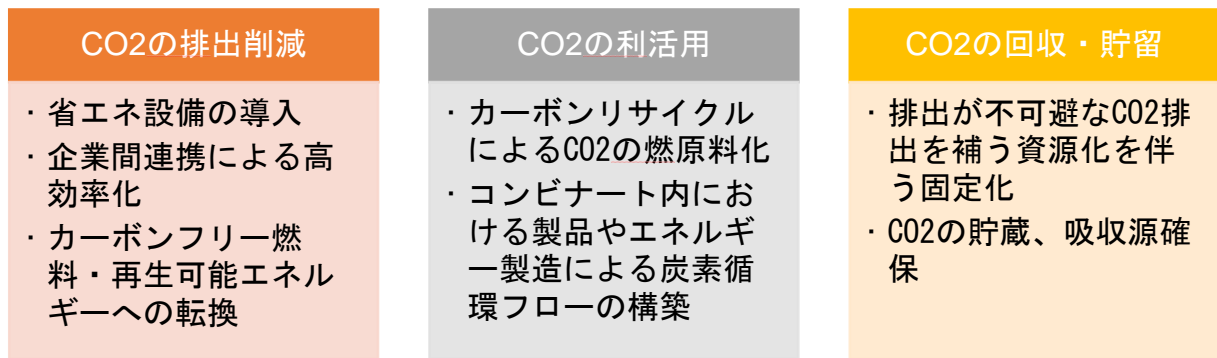
#### 4 コンビナートの将来像

本県の産業特性と技術を活かした炭素循環フローの構築により、生活、社会インフラを支える脱炭素マテリアル／エネルギーを生み出し、供給する拠点として、地域経済を牽引し続けるコンビナート

#### 5 本県コンビナートの産業特性と技術（ポテンシャル）

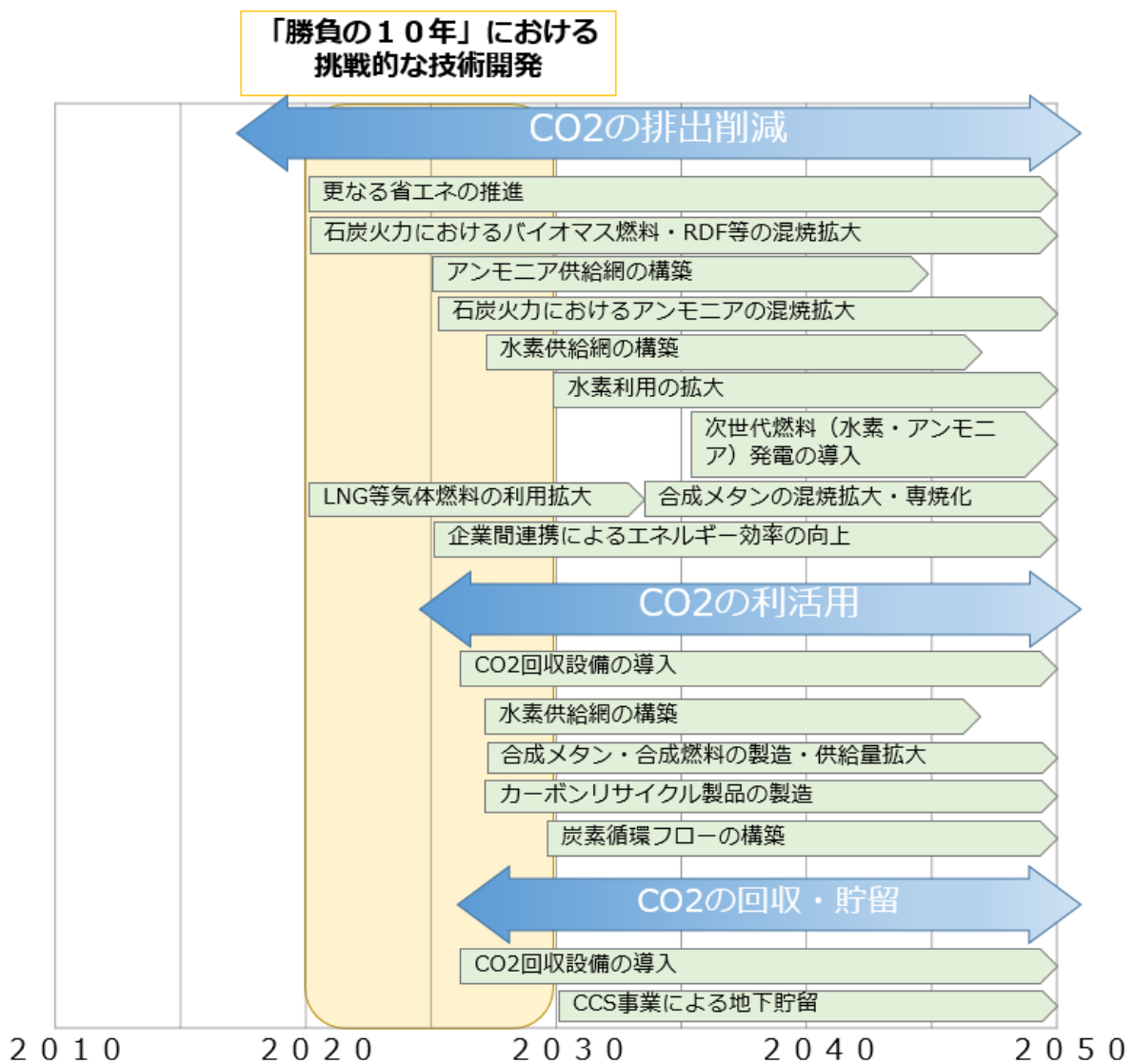
- 製品の原料となり得るCO<sub>2</sub>の排出
- 水素、アンモニアの製造技術とともに、ハンドリング技術を保有
- CO<sub>2</sub>の固定化・吸収源となり得るセメント工場の立地
- 既存のインフラを活用したカーボンリサイクル燃料の精製・供給  
⇒これらのポテンシャルを活かして、炭素循環フローを構築

## 6 低炭素化構想の3つの視点



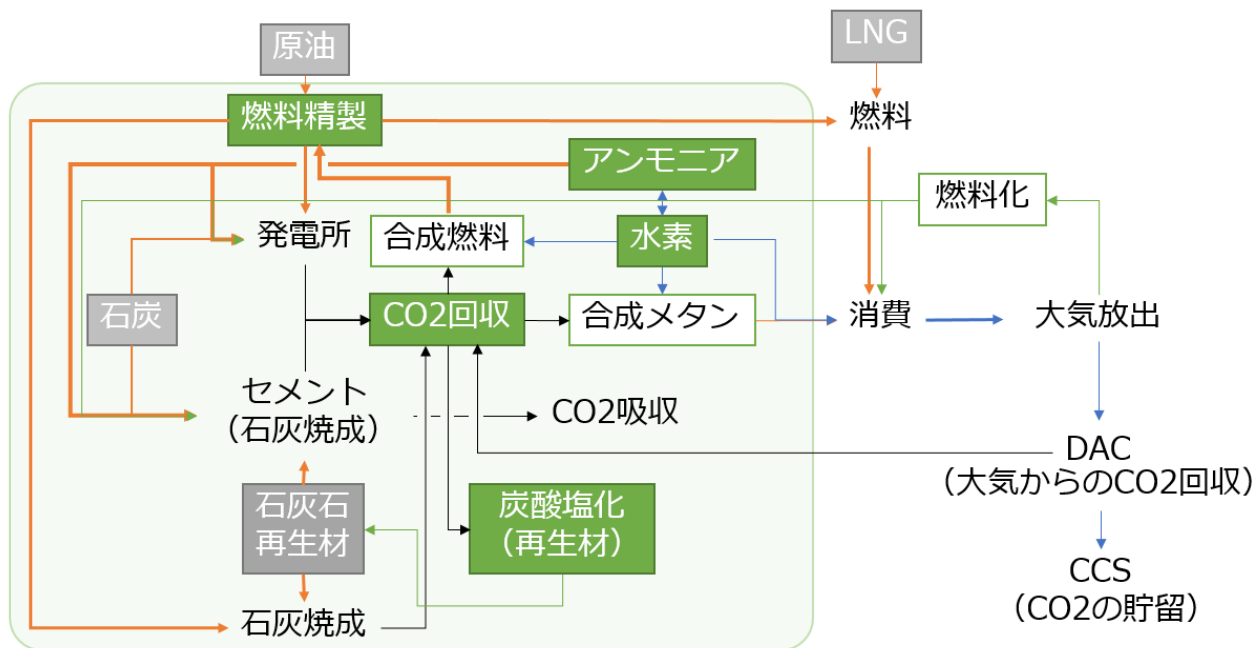
## 7 主な取組及び時間軸

カーボンニュートラルの実現に向けた取組は、インフラ・社会システムの整備や、企業の研究開発の進捗状況等によって、取組の可能な時期が異なることから、現在の状況や見通しを踏まえて、段階的に進めていく。



## 8 CO2利活用（循環フロー）のイメージ

現在の本県コンビナートにおける使用エネルギーや製造品を踏まえて、目指すべきCO2利活用循環フローを構築する。



コンビナートにおける脱炭素マテリアル/エネルギーの供給

### 今後の検討項目

#### 1 CO2削減目標の設定

2030年におけるコンビナート全体の目標値設定の可能性

#### 2 取組及び主体の具体化

取組の更なる具体化と産学公金の役割の明確化

#### 3 地域別の取組

岩国・大竹、周南、宇部・山陽小野田の地域の特성에応じた取組の具体化